

平成31（令和元）年度全国学力・学習状況調査の結果分析（中学国語）

学校名 逗子市立沼間中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>全国や県の平均正答率とほぼ同等の結果です。昨年度までの調査と異なり、国語の問題数は10問と少ないです。一つ一つの問題に活用の要素が入っていることから、どの問題にも苦戦した様子が伺えます。しかし、これまでの調査結果と比較しても無回答であきらめる生徒は少ないです。授業に積極的に参加している本校生徒の取り組みの良さを感じるようになりました。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○全般に全国、県と比較しても同程度の力があると思われます。 ●話し合いでの発言の役割について、適切な説明を選択する問題では、選択肢の内容の理解が不十分だったようで、全国・県と比較すると正答率は低いです。</p>
<p>書くこと</p>	<p>○書くことの領域からの出題は2問です。記述式の設問は1題でしたが、7割以上の生徒が正答にたどり着いていることは評価できます。日頃の授業で、自分の言葉で表現することに取り組んできている成果と言えます。 ●意見文の下書きに加える語句を選択する問題では、論の展開にふさわしい表現を正しく選択できていない生徒が全国・県と比較して多かったのは残念です。書くこと以前の読み取りの力の不足が原因と思われます。</p>
<p>読むこと</p>	<p>○全国・県と比較してほぼ同程度の結果でした。質問紙調査で読書を全くしていないと回答した生徒の割合が全国・県よりも10～15%多く、ほぼ半数が読書をしていないことを考えると、授業の中で培った力で健闘したと考えられます。 ●「海外に広がる弁当の魅力」という記事から内容として適切なものを2つ選択する問いでは、正答の一方を選ぶことはできても、両方2つを選びきれない生徒が全国・県よりも大きな割合でいます。粘り強く情報を整理する力を更に伸ばす必要があります。 ○短歌を読み取り、自分の言葉で感じたことや考えたことを記述する問題では、日頃の授業での取り組みが活き、9割の生徒が条件に合った解答を書くことができています。</p>
<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>○全国、県とほぼ同程度の結果でした。授業では漢字の書き取り、読み取りに力を入れています。今回は漢字の読み取りなどの設問はありませんでした。 ○省略語についての説明を選択する問題は、実生活の中で使用しているものであることもあり、正しいものを2つ選択する問題でしたが、全国・県とほぼ同程度の生徒率です。</p>
<p>生徒質問紙 国語に関する質問 問40～48</p>	<p>○国語の授業が将来役に立つと思っている、授業で学習したことを普段の生活で活用しようとしているという回答は全国・県と同等の割合です。 ○目的に応じて書いたり、根拠を示したり、読むときも段落同士の関係を考えながら読んだりしている割合も全国・県と同程度です。 ○自分の考えを発表する機会では相手に伝わる工夫をしたり、話し合い活動では自分の考えを深めたり広げたりすることができているとの回答は高く、主体的に学習に取り組んでいる様子が見られました。 ●国語の授業が好き、よく分かるは全国・県と比較し5ポイント以上低いです。授業の改善に引き続き取り組み、本校の生徒にとってより良い授業を創る必要があります。</p>

平成31（令和元）年度全国学力・学習状況調査の結果分析（中学数学）

学校名 逗子市立沼間中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>入学当初より、数学には課題が有りましたが、今回の結果もなかなか厳しいものがあります。今回の出題は16題ですが、その全てに「知識」だけでなく「活用」が絡んでおり、「数学的な見方・考え方」という本校の生徒の一番弱いところが結果としても明らかになっています。</p> <p>計算の技能は育ってきていますが、文章を読み取って状況を数学的に理解する力や数式に表現することなど、国語の結果に現われている読み取りの弱さは、数学の結果にもつながっています。無回答率の高さも気になるところです。</p>
<p>数と式</p>	<p>○計算の技能は全国、県と同程度です。</p> <p>●「連続する3つの奇数の和が中央の奇数の3倍になる」という予想を、文章と文字式から読み取って、その状況を式と言葉で表現し証明する問題では、無回答率が高く、正答率も低いです。問題文も長く、丁寧な読み取りができるかどうかも課題です。授業でも全教科で粘り強く取り組む必要のあるところです。</p>
<p>図形</p>	<p>○三角形の合同条件は全国、県と同程度の正答率です。</p> <p>●与えられた条件を一つ一つ理解し、まとめていく作業を一人でできる力がまだ十分ではありません。個々の図形の性質や合同条件などについて理解していますが、証明したり説明することに課題が見られます。</p>
<p>関数</p>	<p>○反比例の式を表から求めることは全国・県と同程度にできています。</p> <p>●冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフを活用しての問いでは、数学的な見方や考え方を問われ、全国・県でも正答率の低い問題ですが、本校の結果はそれを更に下回っています。</p>
<p>資料の活用</p>	<p>●読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表を読み取り、資料の傾向を説明する問いでは、全国、県の正答率も低いですが、更に低い正答率です。資料の数や文書の長さに興味を削がれずに取り組む姿勢を養う必要があります。</p>
<p>生徒質問紙 数学に関する質問 問49～53</p>	<p>○数学が好きかどうかでは全国、県と比較しても差はありません。授業がよく分かると回答している率は全国・県よりも高いです。今後も授業で生徒を引きつけ、丁寧な指導で力を伸ばしていきたいです。</p> <p>●授業は大切、将来役に立つと思うかについては、5～10%全国・県よりも低い回答です。また、記述式の問いに最後まであきらめずに回答しようとしたという回答が全国・県よりも10%程度低いところに本校の生徒の特性が見えています。課題の条件を一つ一つ理解し、自分の言葉や式で表現できるように、数学の授業だけでなく、学校として引き続き取り組んでいきます。</p>

平成31（令和元）年度全国学力・学習状況調査の結果分析（中学英語）

学校名 逗子市立沼間中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>○概ね全国と同等の結果となりました。聞くことに関しては概ね全国・県と比較しても遜色ない結果です。</p> <p>○「知識」に関する出題については、読むことの領域でも概ね良好です。</p> <p>●書くことの領域は全国、県と比較し、正答率は低いです。</p> <p>●短答式・記述式の回答に課題があります。記述式の問いに対しての無解答率が高いです。</p>
<p>聞くこと</p>	<p>○短い会話や説明を聞いて状況を判断する問いについては概ね良好で、全国・県と同等の結果です。日常的にIEAとのTT(ティーム・ティーチング)の授業を実施している効果が出ていると思われます。</p> <p>●まとまりのある説明を聞き取り、複数の項目を順に並び替えたり、聞き取ったことから判断して英文を書くところについては課題があります。</p>
<p>読むこと</p>	<p>○比較的短い文章を読み取ることは全国・県と同等にできています。授業であらすじを捉えることを大事にしている効果が出ています。</p> <p>●食糧問題について資料を読み、その問題に対する自分の考えを書く問いでは、全国・県の正答率も1割程度という低さですが、本校も同程度です。無回答の率が3割を超えていることに書くことへの抵抗感が見て取れます。</p> <p>●答えの選択肢が英文の場合、正答率が下がる傾向にあり、最後まで粘り強く読み取り、理解しようとする力がまだ十分でないことが伺えます。</p>
<p>書くこと</p>	<p>○与えられた情報に基づきある女性を英文で説明する問題では、出身地については全国・県と同等の水準で説明できています。</p> <p>●しかし、住んでいる場所や、ペットの有無など、1年生で学習する内容の表現が十分にできていません。接続詞の意味や、現在進行形、過去時制についても十分に理解できていないことが明らかです。</p> <p>●無回答の率が高いことも課題です。</p>
<p>話すこと（参考）</p>	<p>○話すことへの抵抗は感じられません。主語と動詞のある文で回答している率は全国と比較すると低いですが、答えの核となる部分を短い語句で答えることは概ねできています。</p> <p>●会話を続けていくための質問力については課題があります。</p>
<p>生徒質問紙 英語に関する質問 問5 4～6 6</p>	<p>○これまでの授業について、概要や要点を捉えること、自分の気持ちなどを原稿を作らずに発表すること、原稿を作ったスピーチの発表など、全国や県と比較しても十分に取組んでいるとの評価をしています。</p> <p>○英語の授業や将来役に立つ、将来積極的に英語を使う生活をしたいという回答がほぼ7割であることには生徒の高い意欲を感じます。</p> <p>●反面、英語が好きであるとの回答が4割程度と低いことが気がかりです。授業がよく分かるが5割程度で有ることを踏まえ、生徒にわかりやすい授業のあり方を再考する必要があります。</p>

平成31(令和元)年度全国学力・学習状況調査の結果分析（生徒質問紙）

学校名 逗子市立沼間中学校

特徴的なことや課題と考えられること等

- ・自己肯定感は比較的高く、全国・県とも大きな差はありません。「先生に認められている」「家で学校のことを話したりしている」と回答していることと連動しているようです。
- ・前年度同様、起床時刻、就寝時刻、朝ご飯等、生活習慣への質問の回答は安定した生活ができてきていることを示しています。
- ・話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている、授業で学んだことを他の学習に活かしている、調べたことをまとめて発表する学習をしている、学級の話合いで互いの意見の良さを活かしてよりよい解決方法を決めている、など、学校での取り組みを前向きに受け止めています。
- ・全く読書をしないという回答が半数以上、新聞も8割以上の生徒に読まれていない状況は、自分一人の力で文章を読みこなせていない生徒が多いことと関係しているように思われます。
- ・穏やかな集団ですが、学校の規則を守っているかの設問に、「当てはまる」との回答は約4割で全国や県が6割5分程度であることと比較すると低さが気になるところです。
- ・家庭での学習時間は1時間以上勉強している割合が県と比較して1割ほど低く、全くしていないという生徒が4月の時点で15%ほどいたことが気になります。夏休みはしっかりと学習に取り組んだ生徒も多いですが、自分の力で宿題に取り組むことが難しい生徒もいることも事実です。取り組みやすい宿題の与え方をさらに工夫していく必要があります。

平成31(令和元)年全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 逗子市立沼間中学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・授業に取り組む姿勢を見ると、本校での授業改善の取り組みは生徒たちの意欲を引き出し、主体的に学習に向かわせる方向へ進んでいると思います。全体の結果は決して良いものではないことですが、これまでの学校として取り組み、育ててきたもの少しずつ力になってきていることも実感できました。協働学習の中で伸びてきている力を大事にしながら、一人でも粘り強く学習に取り組めるようにしなければならないことも事実です。「主体的で、対話的な深い学び」を支える語彙や基本的な知識等をしっかりと身につけることが課題となります。
- ・自分たちで学びを深めていく気持ちも育ってきています。短い家庭学習の時間が少しでも長くなり、また密度の高い学習ができるよう、個々の生徒の取り組みについて手立てを考え、一人で取り組みやすい内容からでも学習に向かわせる工夫が必要です。
- ・総合的な学習の時間を含め、学校全体として取り組んできている「自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく伝える」活動は生徒たち自身にも達成感をもたらし、力を伸ばしてきています。今後もこのような学習を充実させ、大人の言葉で、場面にあった表現を意識的に使うように指導していきます。理解し難いことから逃げずに、多少難しくても挑戦する姿勢も合わせて伸ばしていきたいです。
- ・これまでも様々な工夫して取り組んできましたが、教員側がより具体的で明確な目標を設定して授業を行うことで、生徒の力を伸ばしていきたいです。